

特集

ストップ！CKD 「腎臓を守る」包括的な視点

特集にあたって

慢性腎臓病（CKD）はわが国において成人の8人に1人が罹患しているとされ、身近な疾患の一つです。すでに低下した腎機能の回復は難しく、患者のQOLを保つためには、いかに腎機能を低下させずに、日常生活を送るかが鍵となります。腎臓は高血圧や心不全、糖尿病などのさまざまな疾患から影響を受けてその機能が低下します。一方、腎機能低下は他臓器にも影響を与えて、心血管疾患、骨・ミネラル代謝異常、腎性貧血、サルコペニアなどの合併症を発症します。したがって、腎機能低下を防ぐためには、その病態生理や合併症を理解し、包括的な視点からのサポートが欠かせません。

そこで今回は、第一線で活躍されている先生方に腎臓の役割・機能を理解したうえで行う薬学的介入について解説いただきました。「腎機能とは何?」「腎機能と疾患との関係は?」という病態の理解につながる基礎から、腎機能低下を防ぐための治療目標や、薬物治療が必要とされる患者の薬学管理上の注意点など、CKD患者をサポートするうえで必要不可欠なポイントを記しています。

本特集の構成としてはまず、『エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023』について、薬物療法に関連するエビデンスの概要/CKD診療をサポートするために、薬剤師におさえてほしい・活用してほしいガイ

ドラインの内容を解説いただきました。次に、薬剤師が服薬指導を行う際に、知っておくべき腎臓と他臓器の関係や栄養管理、生活習慣のサポートについて解説いただきました。最後に「中等度・重度CKDでの処方の特集」として、腎排泄型薬剤の処方、急性腎障害を引き起こす可能性のある薬剤、転倒リスクのある処方などについて、疑義照会のポイントやポリファーマシー対策も含めて、薬学管理上の留意点を記載しています。

本特集が腎機能低下を防ぐための長期的な薬学的管理、その一歩を踏み出すための一助になれば幸いです。

熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）薬剤学分野 教授
丸山 徹

熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）医療情報薬学分野 教授
渡邊 博志